

+ 第30回 歴史&ハイキング愛好会例会 実施報告書

「妙典～行徳の寺町巡り」

当番世話人 宇田川 修彦

市川市の地下鉄東西線妙典駅に3月16日(土)13名の会員が集合し、「戸数千軒・寺百軒」と云われる妙典から行徳までの寺院・神社を散策しました。古くは徳川家康が鷹狩りの出かける時、日本橋から船で行徳に着き東金まで馬で行った、その道が権現通りとして残っており、道なりに2・5km程の狭い範囲に、寺院20余軒、神社10余軒が集まった寺町です。

行徳は江戸時代関東有数の製塩を誇った場所で、製塩業で財をなした者の豪邸があちこちにみられました。且つ寺院神社が多いことから腕利きの仏師、宮大工、金具製作、彫刻、漆塗り、金箔の他建具職人が多く集まり、神輿の製作が盛んになり江戸型の8割の神輿は行徳で作られたと云われています。

現在は中台神輿ミュージアム・浅子神輿店主屋で当時の製作過程や現物を見ることができます。当日は地元の2名の女性ボランティアガイドの説明で、かつて栄えた旧江戸川沿いの街並みをゆっくり散策し、川沿いに立つ常夜灯前で記念写真を撮り解散しました。

☆ 地下鉄東西線 妙典駅で



☆ 寺町通りは電線が地下に





★ 常夜灯前で



参加者(敬称略) 13名

遠藤哲也、小澤敏宣、川股賢三、住田勝治、田代 周、野田 佑、橋本裕一郎、
牧田賢二、宮地秀幸、宮武 亨、山田昌之、六角 學、宇田川修笹